

## 平成21年度上期「なら県民電子会議室」運用の結果について

平成22年3月26日

奈良県知事公室広報広聴課広聴係

### 運用全般に関して

「なら県民電子会議室」は、インターネットを活用して県民同士が県政について幅広く議論できる場を提供することにより、県民の県政に関する理解と関心を高めることを目的として、平成18年11月1日から運用を開始し、平成21年度で4年度目に入り、上期は平成21年4月4日から9月30日までの6ヶ月間実施しました。電子会議室の運用については、平成19年度、20年度に引き続き21年度も公募により選定している運営団体であるNPO法人電子自治体アドバイザークラブと県が協力して実施しました。

平成21年度上期のテーマは、県政の主要施策等、県民の関心が一層高まるものとして、「ものづくり産業を考える」、「もてなしの心あふれる奈良」及び「奈良の医療をよくするために」そして、参加者の選択肢の幅を広げるため、前々回から運営団体の自主テーマを1つ追加して実施しており、今回は「ホテルが飛び交う河川の範囲を広げよう」を取り上げ、合計の4つのテーマを選定しました。

登録・投稿・アクセスの結果は、次のとおりです。

| 期 別     | 期末登録者数累計 | 投稿件数(1テーマ1月平均) | アクセス件数 (月平均)    |
|---------|----------|----------------|-----------------|
| H21年度上期 | 314人     | 766件(26件)      | 26,275件(4,379件) |
| H20年度下期 | 243人     | 789件(33件)      | 22,139件(3,690件) |
| H20年度上期 | 200人     | 748件(31件)      | 21,545件(3,591件) |
| H19年度下期 | 162人     | 683件(38件)      | 22,356件(3,726件) |
| H19年度上期 | 127人     | 882件(49件)      | 22,702件(3,784件) |
| H18年度下期 | 66人      | 185件(19件)      | 11,078件(2,216件) |

登録者数累計は、平成21年度上期末で314人で、期末別登録者数の比較では71人増と過去最大の増加でした。また、トップページへのアクセス件数も26,275件で、平成20年度下期22,139件に比べ4,136件と大幅に増加しました。

しかし、投稿件数は、平成21年度上期766件と、平成20年度下期に比べ23件減少。また、1テーマあたりの1ヵ月平均件数も7件減少しました。

この県民電子会議室は、平成18年11月から平成21年9月末までの3年間実施し、この間20テーマの会議室を開設し、電子会議室の運営を通じて、生まれてきたものは、「県政への関心を高める」、「グループ活動の芽生え」、「議論を深めて多様性を認め合う」ということが挙げられています。その一例として、「教育について考える」をテーマで実施した会議室の議論をきっかけとして、地域での教育支援を目的として生まれた団体の発足や、今期「ものづくりを考える」のテーマで実施した会議室では、ビジネスチャンスを作り出す議論に発展したという具体的な成果が報告されています。

一方、継続して取り組まなければならない課題として、投稿者の固定化が顕在化してきている。ただ、会議室を閲覧している方(アクセス件数)は増加しており、こうした閲覧者を如何にして投稿行動に結びつけるか、更なる工夫が必要であると述べられています。

電子会議室は広く県民にメッセージを伝達し、議論して県民の意見を集約する有効な手段であり、より多くの県民への理解と関心を高め、一人でも多くの県民の参加を呼びかけ、幅広く議論できる「なら県民電子会議室」に活性化していく必要があると述べられています。

## 各会議室に関して

### 1 (テーマ1) 「ものづくり産業を考える 奈良に興したいこんな産業」

#### 1) 概要

この会議室では、県内には個人の自己実現の場としての職場が少なく、出稼ぎ奈良としての経済特性が現れている。これらの現象の解消には、価値の循環の生じる仕組みをつくり育てることが重要であり、その仕組みとは、「ものづくり」の時代は終わり、「ものごとづくり」に視点を移さねばならない。県民意識としての「ものづくり産業を考える」、奈良に興したいこんな産業議論をサブタイトルとして、人づくり、事業や技術、情報・ソフト・ノウハウの3つの視点で議論をスタートさせた。6ヶ月間の投稿件数は419件(投稿者数17人)でした。提案事項を大きく3項目に分けて整理されています。これらの内容は報告書に詳しく記載されています。また、コーディネーターとして感じたこととして、半年間の議論を通じて、提案のあった案件について、実際に顔を突き合わせてものづくりについて検討会を開催して議論し、実際に吉野まで足を運んで支援された投稿者もおられ、今後の商品開発に一席を投じることができたと述べられています。

#### 2) 提案に関する施策の推進状況

報告書において取り上げられた10項目の提案について、それらに関連する施策の現状、施策の方向性等について、別紙1にとりまとめています。

### 2 (テーマ2) 「もてなしの心あふれる奈良 ひと声からはじまるコミュニケーション」

#### 概要

この会議室では、「もてなしの心」とは何か。さりげないもてなしは、どうしたら伝わるのか。「もてなし」をしていることを何かの形で知ってほしい。もうあと一步踏み出して、もてなしをしている自覚がほしい。その方法はどうすべきか等、県民一人ひとりが身近なことから始められることを考えてみませんか。という問いかけから議論がスタートした。6ヶ月間の投稿件数は、159件(投稿者数19人)でした。提案事項については7項目に分けて整理されています。報告書において取り上げられた提案内容は、施策担当課に通知しています。

### 3 (テーマ3) 「奈良の医療をよくするために - 受診者の立場から医療を考える -」

#### 概要

この会議室では、平成20年度下期に実施した「受診者の立場から医療資源を考える」に引き続き、医療を継続テーマとして取り上げ、今期は、「奈良の医療をよくするために」という意見の出やすいテーマに変えて議論をスタートしました。6ヶ月間の投稿件数は、125件(投稿者数13人)でした。提案事項については、14項目に分けて整理されています。報告書において取り上げられた提案内容は、それぞれの施策担当課に通知しています。

### 4 (テーマ4) 「ホテルが飛び交う河川の範囲を広げよう - 河川・公園・道路を美しくするには -」

#### 概要

前回から県民電子会議室の参加者の選択肢を増やして活性化につなげるため、運営団体が自主テーマを一つ取り上げて実施したものです。

この会議室では、ホテルという小さな生き物の命や生息環境に対して、人間はできるだけ負荷が少なく、私たち人間にとっても生活しやすい自然環境を持った街の姿について考えてみようという議論展開が行われました。6ヶ月間の投稿件数は63件(投稿者数17人)でした。提案事項については、5項目に取まとめられています。報告書において取り上げられた提案内容は、施策担当課に通知しています。